

# 平成 29 年度 事業計画書

学校法人 学 習 院



学校法人学習院は、平成 29 年度から平成 33 年度の 5 ヶ年を実施期間とする中期計画として『学習院未来計画 2021』を策定し、全体目標として、Ⅰ：学習院の歴史と時代の要請を踏まえた教育改革 Ⅱ：学習院の総合力を発揮するための学校間連携の強化 Ⅲ：教育の質をたゆみなく向上させるための環境整備 の 3 つを掲げ、その下に院内各校と法人本部等がそれぞれの目標を定めました。

平成 29 年度事業計画書は『学習院未来計画 2021』との連動性を踏まえ、院内各学校と法人本部等がそれぞれ中期計画の目標の達成に向けて、平成 29 年度に取り組む内容を取りまとめたものとなっています。

『学習院未来計画 2021』スタートの年にあたる平成 29 年に、「勢いのある学習院」としてますます発展するために、各計画の実現に向けて全力を注いでまいります。

## 大学

### 1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進

【学習院未来計画 2021】1. 教育支援の充実

【学習院未来計画 2021】11. スタッフ・ディベロップメント (SD) の推進

FD・SD については、学生による授業評価アンケートや、教員同士による授業参観、FD 研究会の開催といった取り組みを継続しながら、教員のみならず職員も含めた形で効果を上げるためのプログラムの構築に努めます。特に国際社会科学部においては、設置 2 年目となる平成 29 年度に英語で授業を行う専門科目を開講するため、英語科目教員と社会科学科目教員との合同研究会を開催し、授業内容を充実させていただきます。

### 2.ラーニング・サポートセンターの充実

【学習院未来計画 2021】1. 教育支援の充実

【学校長裁量枠】

ラーニング・サポートセンターは開設 2 年目を迎えるにあたり、学生からの相談に応えることに加え、センター独自の学生向けセミナーや正課外での課題解決型学習・グループ学習の実施、ラーニング・ポートフォリオの運用等、サービス内容を多様化します。また、学習支援体制を充実させるために、優秀なスタッフの確保と増強に努めます。

### 3.総合基礎科目見直し検討委員会の設置

【学習院未来計画 2021】2. 語学教育を含む教養教育の見直し・再編

平成 29 年度に総合基礎科目見直し検討委員会を設置し、本学における大学共通の初年次教育、リメディアル教育、汎用的能力の形成、外国語教育、キャリア教育のあり方について検討し、総合基礎科目のカリキュラムの再編に着手します。

## 4.平成 30 年度入試の受験機会拡大の準備と実施及び平成 32 年度以降入試制度の検討

### 【学習院未来計画 2021】 3. 入試改革

平成 30 年度入試より、本学では初めて、各学部（一部学科を除く）一般入試の複数回入試を実施することを決定しました。平成 29 年度は詳細な入試制度を設計して、十分な実施準備を行うとともに、例年以上に各高等学校や受験生に向けた入試広報を積極的に行い、制度を周知することにより志願者数の拡大を目指します。

また、平成 32 年度以降の高大接続システム改革を踏まえた、入試制度を検討していきます。

## 5.世界展開力の強化とサーティフィケートプログラムの調査・検討

### 【学習院未来計画 2021】 4. 国際化の一層の推進

#### 【学校長裁量枠】

ProjectA として、学習院大学グローバル・キャンパス構想として実施している海外短期研修の派遣総数を約 150 名から 200 名へ増やすことを目標とし、さらに基礎教養科目「海外フィールド研修」の科目数を拡充（欧州日本学・ヨーロッパ研究・東アジア研究・国際環境協力研究）させます。

ProjectB として、各種の海外研修で得ることのできる知識・方法・視野等を教育課程の一環としてパッケージした「国際環境学」「国際日本アジア学」「国際日本語教育」の 3 つのサーティフィケートプログラム（履修証明書発行プログラム）を設置することを想定した調査・検討を進めます。

## 6.国際交流に関する学生窓口の一本化

### 【学習院未来計画 2021】 4. 国際化の一層の推進

平成 29 年度は国際研究教育機構と国際交流センターで重複する業務の精査や、必要な人員の配置を進め、平成 30 年度に両組織を統合し国際交流に関する学生窓口を一本化するための準備を進めます。

## 7.奨学金の拡充と検証

### 【学習院未来計画 2021】 5. 学生生活支援の充実

奨学金政策で競争力を発揮するためには資金面の拡充が不可欠ですが、限られた予算の中で平成 28 年度は入学前予約型給付奨学金「目白の杜奨学金」、「さくら奨学金」を新設し、一歩ずつ前進を続けてきました。

平成 29 年度以降、新設奨学金を着実に運用しつつ、既存奨学金と合わせて実績を積み上げ、他大学の動向や社会情勢を踏まえたデータ検証作業を進めます。

## 8.IR 機能と体制の更なる充実

### 【学習院未来計画 2021】 6. 教学マネジメントの強化

#### 【学校長裁量枠】

IR 活動の一環として平成 27 年度から実施している「在学生調査」を継続して実施することに加え、平成 29 年度からは学部卒業後満 5 年経過者を対象とした「卒業生調査」を毎年度実施し、調査結果を活用し、総合基礎科目や各学科のカリキュラム改革につなげることを目指します。

なお、IR 活動が今後組織的に機能するよう、平成 29 年度は、平成 30 年度からの「大学教育開発支援機

構（仮称）」設置を目指す準備期間とします。

## 9.本格的セメスター制度導入に向けての検討

【学習院未来計画 2021】6. 教学マネジメントの強化

【学習院未来計画 2021】4. 国際化の一層の推進

本格的セメスター制度の導入について、平成 29 年度より、教務委員会において検討を開始します。平成 26 年度より導入された本学独自のセメスター制度についての利点欠点を検証した上で、国際化の一層の推進にも資するよう、多方面にわたる影響を考慮しつつ検討いたします。

## 10.「超高齢社会への新たなチャレンジャー文理連携型<生命社会学>によるアプローチ」の推進

【学習院未来計画 2021】7. 研究活動の活性化

平成 28 年度に、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」タイプ B（世界展開型）として採択された全学的な研究プロジェクトである「超高齢社会への新たなチャレンジャー文理連携型<生命社会学>によるアプローチ」を推進します。平成 28 年度から 5 ヶ年にわたる研究の 2 年目に当たりますが、当初の研究計画を着実に推進することにより、全学的な研究活動の活性化を図ります。

## 11.地域連携協定先との取り組みの検討

【学習院未来計画 2021】8. 地域連携の拡充

東京都豊島区に加え、岐阜県中津川市・恵那市、石川県能登町と締結している地域連携協定を元に、各自治体のニーズを踏まえたうえで、本学の教育研究活動と連携するための具体的なプランを検討します。従来からの取り組みの更なる充実はもちろん、平成 29 年度以降の新たな取り組み開始に向けた検討と調整を進めます。

## 12.学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化

【学習院未来計画 2021】10. 高大接続改革の推進

学習院高等科・女子高等科とは、高大接続改革や大学入試改革に対応するための情報交換と要件整理を、平成 28 年度から開始しました。平成 29 年度も同様の取り組みを継続し、内部進学スケジュールや推薦基準について検討を行います。併せて、従来から取り組んでいる出張講義・授業聴講・科目履修生の各制度において、両高等科の利用者増を図るために、取り組み内容や周知方法について見直しを続けていきます。

また、教職員合同研修会の開催や各種講演会等への参加等も継続していきます。

学習院両高等科以外の高等学校との取り組みについては、協定締結校である戸山高等学校、順天高等学校との教職員合同研修会の開催や各種講演会等への参加、本学研究室の見学等を継続しながら、両高等学校との連携強化に努めます。

## 13.大学史料館展示・講演会の開催

大学史料館では、例年各所からの助成・寄付を受けて展示と講演会を開催しています。平成 29 年度の開催予定は下記の通りです。

【展示会】

「宮廷装束の世界」展 4/1～5/27 [霞会館助成金]

児玉幸多没後 10 周年展 6/26～7/4 (仮・予定)

「辻邦生『夏の砦』」展 7/15～8/11

「学習院創立 140 年 神田・虎ノ門の学習院」展 10/2～12/9 (予定) [霞会館助成金]

#### 【講演会】

第 82 回史料館講座「装束の着装と披露」衣紋道研究会 5/13 (土)

第 83 回史料館講座「辻邦生の出発—『夏の砦』」加賀乙彦 7/22 (土)

第 84 回史料館講座「学習院創立 140 年記念講演会」10/28 (土) (予定)

## 女子大学

### 1.教職課程開設準備と、教育力の強化

【学習院未来計画 2021】1.カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

【学校長裁量枠】

平成 30 年度の教職課程開設に向けて、平成 29 年度は文部科学省への申請と認可を受けるための業務に注力します。

在学生に対しては、学習成果の可視化を図るために、「大学生基礎力調査」を 1 年生から 3 年生まで継続して実施し、その結果を教育効果の検証とカリキュラムの点検に活用します。

また、ラーニングサポートルーム（仮称）を設置し、初年次教育の支援拡充を図り、学生の知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の早期形成をサポートする体制を強化します。

### 2.海外研修プログラム新設の検討と協定校選定

【学習院未来計画 2021】2.国際化の一層の推進

学生が目標としやすいような、3 ヶ月から 6 カ月程度の海外研修プログラムの設置を、教務、学科、国際交流推進センター等で検討し、平成 29 年度中に大枠のスキームを作成し、平成 30 年度のプログラム設置を目指します。

協定校の選定・交渉も引き続き進めますが、単に校数を増やすのではなく、実質を伴う協定先を着実に増やす方針です。また交換留学だけではなく、多様な形で海外の大学との交流を検討していきます。

### 3.入試への英語外部試験利用の導入検討と、内部進学要件整理

【学習院未来計画 2021】3.高大接続改革に伴う入試改革

平成 31 年度入試に向けて、英語外部試験利用の導入を検討するため、入学者の英語力を測る基準と入学後の英語教育カリキュラムとの整合の観点から、学内で議論を進めます。

女子高等科とは、高大接続改革や大学入試改革に対応するための情報交換と要件整理を行い、内部進学スケジュールや推薦基準についての検討を行います。

### 4.研究・教育環境の向上

【学習院未来計画 2021】5.研究・教育環境の向上

女子大学図書館の無線 LAN 設備を、既存の 2 階部分については更新し、未設置の 3 階部分については

増設することで、学生の利便性向上を図ります。

また、桜並木の老朽化に伴う植え替えを平成 28 年度から開始しましたが、平成 29 年度もそれを継続して進めます。

## 5.対外的な文化活動の取り組み

### 【学習院未来計画 2021】 6.外部に開かれた文化活動の充実

平成 28 年度に実施した、伝統文化講座を通じた国際交流を、さらに拡充します。具体的には、協定留学生向けや在日外交団向けの茶道講座と、主要都市の日本文化会館に講師と学生を派遣しての茶道文化の紹介と大学間交流を行う予定です。この取り組みを通じて、国際文化交流学部として日本の伝統文化に対する理解を深めてもらうのと同時に、協定校候補の開拓を行います。

また、平成 27 年度から継続して実施している、日本文化探求と国際文化交流を目的とした国際共同研究が、平成 29 年度に最終年度を迎えます。講演会やシンポジウムを開催するのとともに、3 年間の研究成果について「日本文化研究と国際文化交流」というシリーズとして出版を計画しています。

授業成果の公開を目的とした、文化交流ギャラリーでの展示も、平成 28 年度と同等の回数で実施する予定です。

## 高等科・中等科

### 1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討

#### 【学習院未来計画 2021】 1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

特に大きな変革が見込まれる高等科のカリキュラムを中心に、学内のカリキュラム委員会において既に検討を開始していますが、平成 29 年度は具体的な科目内容や配当学年の調整や、選択科目の変更・充実、必要な学則の改正等を科内で継続して議論していきます。また、中等科と高等科の教科面でのより効果的な接続についても、それぞれの教科において同時に検討していきます。

### 2.院内各校との連携強化

#### 【学習院未来計画 2021】 2.院内各校との連携強化

大学・女子高等科とは、大学長・高等科長・女子高等科長を中心に、高大接続改革や大学入試改革に対応するための情報交換と要件整理を目的とした懇談の場を設けて、平成 28 年度から議論を開始しました。平成 29 年度も同様の取り組みを継続し、内部進学スケジュール、推薦基準、高大連携のあり方について検討を行います。併せて、従来から取り組んでいる出張講義・授業聴講・科目等履修生の各制度や理学部研究室体験において、高等科生（または中等科生も含めて）の参加者増を図るために、取り組み内容や周知方法について見直しを続けていきます。

初等科・幼稚園とは、教科ごとの特性を生かした実践の場面や留学生、あるいは留学経験者による訪問等を通じて、さらには文化祭等の学校行事の中で生徒と児童・園児との交流を深めていきます。

### 3.教職員の連携と協力体制の構築

#### 【学習院未来計画 2021】 3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討

カリキュラム改革にもとづき、授業編成上必要な中高の専任教員、あるいは職員の配置について検討を

行います。また課外活動への外部指導者の導入についても可能性を探ります。特に職員に関して、カウンセリングルーム、図書室等専門性の高い部門に有用な人材配置ができるように諸条件の整備も改善に向けて進めていきます。加えて教職員が連携して生徒への指導を行えるように、海外大学進学へのアドバイザーの新設等をトータルな施策の中で検討します。

## 4.国際化の一層の推進

### 【学習院未来計画 2021】4.国際化の一層の推進

例年、高等科からは15名から20名前後の生徒が長期留学をしています。今後も生徒への情報提供や、留学経験者による事例紹介等を行うことで、生徒が見聞を広げる機会への積極的な後押しをしていきます。

また、大学で行われる国際研究教育機構と国際交流センターの一体化の取り組みに対して、中等科・高等科の要望や取り組み内容を伝えて共有する等、全院的に国際交流、海外への学校にかかわる情報提供、サポートを円滑に進めるための協力体制を構築していきます。

## 5.Webミュージアムによる中高標本室の標本公開

### 【学校長裁量枠】

現在、中等科・高等科には、旧制学習院時代に華族の子弟教育のために収集された、貴重な自然科学系の標本やその他の歴史的史料が多数収蔵されており、授業等で活用されています。また入試広報の場面で実際に公開することにより、広く関心を集めています。この貴重な標本を、中期的なスパンでデジタルデータ化し、「Webミュージアム」としてHP上でその内容を学内外から閲覧いただけるようにすることを目指します。平成29年度は、数十点の公開を目標とします。

## 女子中・高等科

### 1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討

#### 【学習院未来計画 2021】1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

カリキュラム改訂に向けて英語と道徳については、既に検討を開始しており、他の教科についても順次検討を開始する予定です。

アクティブ・ラーニングに関しては、従来より教員の意識は高く、各教科で実施されています。今後も教科間での情報交換等を通じて効果的な方法を絶えず検討しながら、より充実させていきます。ICT教育については、まずは教員がタブレット等の機器を利用した教授法について委員会・教科会で協議を進め、教員が生徒の活動に向けてそれぞれの授業でその有用性を十分発揮できるよう研究を深めていきます。

また、学校長裁量枠による予算を積極的に活用して、生徒が本物に触れるために必要な機会の創出や、機器の購入、施設整備を進めていきます。

### 2.院内各校との連携強化

#### 【学習院未来計画 2021】2.院内各校との連携強化

大学・高等科とは、大学長・高等科長・女子高等科長を中心に、高大接続改革や大学入試改革に対応するための情報交換と要件整理を、平成28年度から開始しました。平成29年度も同様の取り組みを継続し、内部進学スケジュールや推薦基準について検討を行います。併せて、従来から取り組んでいる出張講義・



授業聴講・科目等履修生の各制度において、両高等科の参加者増を図るために、取り組み内容や周知方法について見直しを続けていきます。

初等科とは、女子中等科入学前に児童や父母保証人に女子部生活のルールやマナーについて丁寧に説明し、児童と生徒が触れ合う機会を検討・実施していくことで、より潤滑な接続を目指します。

### 3.広報体制の一層の強化

#### 【学習院未来計画 2021】 4.広報体制の一層の強化

より効果的な広報体制とするために、教頭・教務課・広報委員会の業務を調整し、事務室を含めた対外窓口の整理を行います。

また、オープンスクールや塾対象説明会等の新しい取り組みについて、平成 29 年度はより内容を充実させ、受験生とその保護者に対して、本校への正しい理解を得た上で、興味関心の喚起から志願・入学にまでつながるような効果的な広報活動を行います。

### 4.父母保証人のライフサイクルの変化への対応

#### 【学習院未来計画 2021】 5.父母保証人のライフサイクルの変化への対応

父母保証人とは、今まで以上に密なコミュニケーションを図り、本校への要望やクラス幹事の業務についての意見を交換し、保証人の負担を和らげるように努めます。

カフェテリアの設置を実現させるために、平成 29 年度は候補スペースの確保を行い、平成 30 年度以降の設置を目指します。

また、生徒の身体測定を年 2 回実施することとし、きめ細かい健康チェックに活用するとともに、データを元にした体と心のバランスに、さらに留意するようにします。

### 5.総合体育館竣工・使用開始

平成 28 年 2 月より建築中の総合体育館は平成 29 年 8 月末竣工を予定しています。1 階がプール、2 階がアリーナで、正式名称は「学習院女子中等科・女子高等科 総合体育館」となります。竣工後は調整、什器搬入等を経て 2 学期後半から使用予定です。

それに伴い、第 1 体育館・戸山プールの解体工事を行い、その跡地を女子大学と共用のテニスコート（6 面）として整備します。

## 初等科

### 1.国際化の一層の推進

#### 【学習院未来計画 2021】 1.学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂

#### 【学習院未来計画 2021】 2.国際化の一層の推進

院内各学校からの留学生や留学経験者の訪問を引き続き受け入れ、児童との交流を図ります。

また、平成 29 年度に作成する海外への児童の研修と教員の研修の実施計画を元に、平成 30 年度に事前調査を開始する予定です。

英語の授業を増加させるために他教科の授業を削減することは、現状では考えていませんが、新学習指導要領の内容を確認しながら、必要な場合には授業コマ数の増を検討していきます。

## 2.学年主管設置の準備

### 【学習院未来計画 2021】4.クラス主管に加えての学年主管の設置

平成 29 年度は、学年主管に求める業務内容と、クラス主管との業務の切り分けについて精査を行った上で、学年主管を設置するための教員配置について、法人本部との折衝を中心に、院内各部署との調整を行います。

## 3.院内各校との連携強化

### 【学習院未来計画 2021】5.院内各校との連携強化

中等科・女子中等科の科長・教頭を招き、父母保証人向けに「科長の話」を、児童向けに「教頭の話」を実施していますが、両中等科への理解を深め、より円滑な接続を図るために、それぞれの参加者の対象を広げることや、適当な時期についての検討を進め、より効果が上がるようにします。

また、両中等科の生徒と児童との交流についても、学年・クラブ活動・行事等様々な切り口で検討し、実施できるもの、効果を見込むことができるものから順次進めていきます。

幼稚園との連携については、従来から教員間で行っている連絡会や授業参観のほか、幼稚園園児と初等科児童の交流を考えていきます。

## 4.創立 140 周年記念誌の作成と、記念式典の開催

### 【学習院未来計画 2021】6.創立 140 周年の取り組み

#### 【学校長裁量枠】

平成 29 年度は創立 140 周年記念誌の作成を行います。既に平成 28 年度中から編纂作業を開始しており、順調に推移しています。併せて平成 29 年 10 月 17 日の開院記念日に、創立 140 周年記念式典を初等科正堂にて開催します。式典や記念誌編纂を通じて、来る創立 150 周年の記念行事に向けたノウハウの蓄積を図ります。

## 幼稚園

### 1.従来の取り組みを活かした形での保育内容の充実

#### 【学習院未来計画 2021】1.教育要領改訂を見据えた保育内容の充実

教育要領改訂に関連する講演への参加、講習の受講等を通して情報収集に努め、再開園から 50 年を超える本園の歴史の中で育んできた幼児教育の姿勢や、従来の取り組みを活かした形で、新教育要領に合わせた保育内容の充実を図ります。

### 2.研究保育と園内外研修の実施

#### 【学習院未来計画 2021】2.研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上

近年進めてきた研究保育の内容を更に充実させ、実際の保育に還元できるよう教員間で経験と知識の共有を図ります。

また、園内外研修については、一般的な研修を受講するのではなく、教員からの要望を元に、保育内容を充実させるために必要な研修内容を洗い出し、最適な講師による効果的な研修を実施していきます。

### 3.園内の自然環境を充実させる計画の作成

#### 【学習院未来計画 2021】 3.園内の自然環境の充実

園内、特に築山周辺を中心として、自然環境の充実と遊具の設置計画を作成します。

人工的に整い過ぎたようなものではなく、花が咲き、木の実や果実が生り、葉が落ちるような木々を配置し、生活する中で自然のサイクルを感じられるとともに、園児が活発に体を動かして遊ぶことができる環境を充実させます。

計画作成後は、法人本部の協力を得ながら、計画実施に向けた具体的な検討に入ります。

### 4.院内各学校との交流

#### 【学習院未来計画 2021】 4.院内各校との連携強化

平成 29 年度も引き続き、折に触れて院内各学校からの学生・生徒・児童の訪問を受け入れ、園児と触れ合うことで、園児が様々な年代と接し、興味や刺激を感じる体験の機会を作ります。この機会は教員にとっても、卒園生の成長を実感でき、一貫教育の成果を見守ることができる良い機会にもなっています。

また、園の敷地を出て、目白キャンパス内の恵まれた環境の中で活動する機会を増やしていきます。

### 5.広報ツールとしてのパンフレット改訂と、紹介動画の作成

#### 【学校長裁量枠】

#### 【一貫教育推進予算】

本園へ関心を持ち、入園を検討されるご家庭を増やすために、本園の教育理念と教育内容を伝えるとともに、生き活きとした園児の様子を表現するパンフレットと紹介動画を作成し、わかりやすく正しい情報を提供します。

併せて、本園を見学していただく機会を増やすことも検討します。

## 本部等

### 1.キャンパスプランの策定と実施

#### 【学習院未来計画 2021】 1.キャンパスプランの策定と実施

<第 1 ステージ>

#### ①耐震未対応建物の対策推進について

耐震対策が必要である諸施設について、平成 29 年度は以下の通り対応を進めます。特に、東 1 号館の基本計画策定、女子大学 4 号館および女子中・高等科 B 館の方針策定にあたっては、各学校との調整を密にして円滑な意思決定ができるように努めてまいります。また、各キャンパスの天井耐震対策については、今後、順次進めていく調査の結果に基づき、工事の内容を検討してまいります。

- 東 1 号館の建替工事に係る調査・基本計画の策定
- 女子大学 4 号館および女子中・高等科 B 館の耐震対策方針・基本計画の策定
- 黎明会館耐震補強工事の実施
- 各キャンパスの天井耐震対策
- その他耐震未対策建物の補強方針策定

## ②目白キャンパス・戸山キャンパス桜再生計画

目白キャンパスについては、正門・記念会館付近、西門付近の衰弱した桜を中心に樹木診断を実施し、診断結果に応じて樹勢回復のための治療、または植え替えを行います。平成 29 年度から複数年度に跨り段階的に実施することで、景観の維持を図ります。

戸山キャンパスについては、複数年に跨る段階的な整備を計画しており、平成 29 年度以降については、桜の生育状況を確認しつつ、第二期工事に繋げてまいります。

## 2. 決裁・稟議等のルールの整理

### 【学習院未来計画 2021】2. 決裁・稟議等のルールの整理（総合企画部）

現在、学習院文書取扱規程においては、稟議の必要の有無や、稟議書の整理と保存の方法については、各部署にて判断し実施するものとなっており、全院的な統一が図られていません。

平成 29 年度は、業務改善の観点から企画課が各学校・各部署のヒアリングを通して現状を確認し、事務局長・内部監査室・学習院アーカイブズ・法人と各学校の文書主管課と協議の上、改善のためのルール案を作成し、平成 30 年度からの変更を目指し、必要な規程の整備を行います。

## 3. 広報の充実

### 【学習院未来計画 2021】3. 広報の充実（総合企画部）

近年、インターネットの普及やモバイル端末の進化により、消費者が情報収集する際の媒体やデバイスが大きく変化してきています。それに伴い、広告・広報媒体の主役も紙から Web、デスクトップ PC からモバイルへと変化が進んでいます。こうした環境変化を踏まえ、これまでもホームページの整備や広告手段の見直しを進めていますが、平成 29 年度もさらに効果的な広報ができるよう改善策を検討し実施します。また、学校説明会やオープンキャンパスなど、受験生とその父母、教員、塾や予備校関係者などと接する機会を増やしてきました。今後は内容の見直しや充実を図り、より本院の良さが伝わるよう工夫・改善を行います。

なお、平成 30 年度入試において、大学が新入試制度を導入しますので、こうしたトピックを有効に活かし、積極的な広報を行ってまいります。

## 4. 事務業務システムの見直し

### 【学習院未来計画 2021】4. 事務業務システムの更新（総務部）

現行事務業務システムは、OS 等のサポート期限が迫っており、また、現状の事務業務に合っていない部分も多いことから、事務業務の改善を目的として、学校向け事務業務パッケージソフトへの移行を平成 28 年度より開始しました。

要件定義・設計作業は既に完了しており、平成 29 年度は実際に製品の導入等を行った上でテスト運用を行い、平成 30 年度以降のサービス開始に向けた準備を進めていきます。

## 5. 災害対策のさらなる強化

### 【学習院未来計画 2021】5. 災害対策の更なる強化（総務部）

「学習院防災計画 27」で進めてきた災害対策を検証し、さらに発展したものとして策定した「学習院防災計画（2017～2019）」を基に、平成 29 年度は学生・生徒等の他、帰宅困難者や近隣住民の安全確保のた

めに、防災備蓄品の適正配置や豊島区・新宿区・各キャンパスの最寄り駅等周辺施設との連携強化を進め、同時に各キャンパス間の連携や連絡体制等についての整備を行います。

## **6. 職員研修の更なる充実**

### **【学習院未来計画 2021】 6. 職員研修の更なる充実（人事部）**

スタッフ・ディベロップメント（SD）の一環として、本院の教育研究の充実及び教育機関としての質保証システムの構築に寄与する人材の育成を目的とし、新たに専任職員を公益財団法人大学基準協会（以下「基準協会」という）へ1年間（4月1日～翌年3月31日）研修派遣することとします。派遣期間中の基準協会での業務を通じ、①広範な見識（本院を取り巻く国内外の他の国公私学の情勢を見渡せる能力）②専門的知識（認証評価に係る教学と財務における専門的知識の習得）③長期的視野（質保証システムの構築により長期的に安定した教育の提供に資する能力）④実務遂行能力（的確に物事を捉え、判断し、業務を完遂する能力）を習得させ、学校の経営や運営に能動的に取り組むことのできる職員の育成を目指します。

## **7. 収支健全化に向けた取り組み**

### **【学習院未来計画 2021】 8. 学習院未来計画 2021 の計画実現のための財源確保（財務部）**

#### ①収支バランスを見据えた納付金政策の実行

平成 29 年 4 月入学者を対象に大学（国際社会科学部を除く）、女子大学、初等科、幼稚園における納付金額を改定します。なお、1 人あたりの改定額は大学理学部のみ年額 4 万円、他は 3 万円とします。

#### ②予算枠削減による支出の抑制

各部門への物件費予算配付額について平成 26 年度は 5%、平成 27 年度からは毎年 1%の予算枠削減を続けていますが、引き続き平成 30 年度まで毎年 1%の予算枠の削減を行い、経常的支出の抑制を図ります。

## **8. 各キャンパス構内の維持整備の促進**

### **【学習院未来計画 2021】 9. 各キャンパス構内の維持整備の促進（施設部）**

各キャンパス構内の維持整備に必要な対策として、各建物の屋外防水工事、外壁改修工事、受変電設備工事等を中長期計画で検討してまいります。それ以外の工事として、平成 29 年度は以下の通り対応を進めます。

- 目白キャンパス高圧ケーブル他幹線ルートの構築  
目白地区硬式野球場内の地中には高圧幹線ケーブルが配管・配線されていますが、ハンドホール（ケーブル中継用地中箱）内に土砂が堆積しており、ケーブル交換が不可能な状態であるため、新たな高圧幹線ケーブルの埋設工事を実施します。（平成 27 年度から平成 29 年度実施事業）
- 目白キャンパスの北グラウンドのフェンス拡張・照明改修・人工芝張替工事  
北グラウンドには、現在高さ 10mのフェンスが設置されていますが、ファウルボール等による事故を防止するため、高さを 15mに嵩上げする安全対策工事を実施します。また、フェンス改修に伴う基礎部分の工事に人工芝の張替えが生じることから、人工芝に負担がかかる照明改修工事を事前に実施し、併せて全面的張替工事を実施することで、北グラウンド全体の環境改善を促進します。
- 四谷キャンパスの人工芝張替工事  
四谷キャンパスのグラウンドの人工芝化は、平成 18 年度に施工後 10 年が経過し、経年劣化が

認められることから、児童の安全対策として、張替工事を実施します。

## **9. 「学習院未来計画 2021 推進募金」の充実**

### **【学習院未来計画 2021】10. 学習院未来計画 2021 推進募金の実施（募金部）**

平成 29 年は『学習院未来計画 2021』のスタートの年となりますので、『学習院未来計画 2021』の趣旨を広く理解し共感していただくために、趣意書やホームページの刷新等を行います。また、インターネットバンキングの導入や、ホームページの動画掲載ページから寄付画面につながり寄付の申し込みをできるような仕組みを構築することで、利便性の向上を図ります。さらに、教育・研究施設設備関連の寄付種別の新設等を検討していきます。

## **10. 創立 150 年史編纂に向けての基礎作業**

### **【学習院未来計画 2021】11. 創立 150 年史編纂に向けての基礎作業（学習院アーカイブズ）**

#### ① 学外諸機関所蔵学習院関係資料の調査収集

学習院は昭和 22 年まで宮内省管轄の官立学校であった歴史的な経緯から、学外の公文書館にも、学習院運営の基本を示す公文書が残されています。

宮内庁宮内公文書館所蔵資料の調査とデジタル複写による収集は、平成 26 年度から行ってきましたが、当事業の最終年となる平成 29 年度は、前年度調査結果に基づき、23 件のデジタル複写を行います。また、国立公文書館所蔵の学習院関係公文書が戦前のもので相当数存在しますので、その調査に着手します。

これらの資料は創立 150 年史編纂の基礎史料となる他、多様な研究教育への利用も期待されます。

#### ② 創立 150 年史編纂に向けての体制の検討

創立 150 年史編纂の事業を実施するためには、院史資料の調査収集・整理をすすめてきた学習院アーカイブズの機能強化が欠かせません。『学習院未来計画 2021』の期中から専門性を備えた人材をさらに確保し育成することが必要です。平成 29 年度は専門性を備えた人材の登用および業務のあり方、並びに今後の事業の進め方について検討します。

## **11. 文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討**

### **【学習院未来計画 2021】12. アーカイブズ文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討（学習院アーカイブズ）**

本件は前中長期計画『学習院未来計画 28』からの課題ですが、『学習院未来計画 2021』において全院的な課題の一つとして本格的な検討を開始します。平成 29 年度は収蔵、展示およびこれに付随して必要なスペースや環境について関連部署との協議をすすめるとともに、施設が整うまでの間に増加する移管文書および寄贈資料の暫定的な保管場所について検討します。

以上